

まえがき

人々の生活に密着している身近な巨樹や老樹は、様々な価値を持っています。例えば、広場に木陰を作る「緑陰樹」、果実等の食料を恵む「果樹」、神社の「御神木」、仏閣の「御霊木」、道しるべとなる「指標木」、地域の歴史や伝説を伝える「伝承木」など。これらの樹木は、日々の暮らしの積み重ねの中に存在し、人々の原風景の一部として心に刻み込まれてきたものです。

ところが、このような巨樹・老樹の価値は、残念ながらその存在がなくなってはじめて気づくことも多くあります。特に、戦後の高度成長期以降の社会資本整備や地域開発においては、経済性を最優先に進められてきたこともあり、地域の良好な景観を構成している樹木にはあまり注意が払われず、開発の中で失われてしまった樹木も少なくはありません。

巨樹・老樹は長い年月をかけて、人々と共に成長し、その存在感を高めてきたものであり、失われるのは一瞬であっても、新たに樹木を植えてその復元を図ろうとしても長い年月を要し、それでも決して同じものを復元することができない、このことを常に意識しておく必要があります。

そのため、地域の良好な景観を形成している巨樹や老樹は、安易な喪失を防ぎ、将来にわたり持続的に保全できるよう、積極的に維持管理等を実施していくことが望まれます。これにより樹木自体を元気に保つばかりでなく、人々が生活する地域の景観を守り、周辺の自然を保全し、過去を物語る原風景を維持することによって、安心感のある暮らしの実現に寄与するものと考えられます。また、巨樹・老樹を題材にしたイベントや環境教育などを積極的に企画していくことをきっかけとして、人々がその地域の歴史・文化に興味を抱き、それを地域コミュニティづくりや観光振興に繋げるなどの取り組みに発展させることも可能となります。

本資料は、これまでに取り組まれた巨樹や老樹等の保全対策について、保全対策実施後の樹木生育状況を調査することにより各保全対策の効果を検証した結果をとりまとめたものです。今後、巨樹・老樹の保全対策をはじめ、多くの樹木の維持管理において参考とされ、地域における大切な樹木が、将来にわたって健全に引き継がれることを期待します。

平成 22 年 1 月

国土交通省 国土技術政策総合研究所 環境研究部 緑化生態研究室

室長 松江 正彦